

「 数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲ・数学C 」 シラバス

学科	普通科	学年	2 年	類型	Ⅲ	組	3・4 組	単位数	7
使用教科書	高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、高等学校 数学B(数研出版)、 高等学校 数学Ⅲ(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版)								
副教材等	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B(数研出版) 新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅲ+C(数研出版)								

1 学習の到達目標

① 三角関数、指数関数及び微分・積分、数列、ベクトル、統計、極限の考えについて理解を深める。
② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力やそれらを活用する力を養う。
③ 基本的な概念や原理を体系的に理解し、活用できる力を養う。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、よりよく問題を解決しているか。	(2)(3)(4)(5) (6)(7)(8)(9)
思考・判断・表現	事象を数学的に考察や表現をし、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることで、その分野における数学的な見方や考え方を身に付けているか。	(2)(3)(4)(5) (6)(7)(8)(9)
主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し、数学的活動を通してその分野における考え方に興味を持ち、それらを事象の考察に活用して数学的な推論によって判断ができているか。	(1)(2)(3)(4) (5)(6)(10)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1)ペアワークやグループワークへの参加状況 (2)教員の質問に対する応答 (3)指示した問題に対する板書状況	
課題などの提出状況	(4)週末や長期休業中に指示する課題 (5)日々のプリント (6)課題学習	
ペーパーテスト	(7)定期考査 (8)単元テスト (9)小テスト	
ノート提出	(10)定期考査ごとに提出	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	数学 C 第 1 章 平面上のベクトル 数学 II 第 4 章 三角関数 数学 II 第 5 章 指数関数と対数関数	・ 予習、授業、復習のサイクルを確立させた上で、以下のことに留意して学習する。 (ア) 各章において予習を行い、例題を解いてきた上で授業に臨む。 (イ) ペアワークやグループワークを通して理解を深め、問いに対する別解などを考える。 (ウ) 学習内容を生活と関連付けた課題学習を行う中で、数学の良さを認識し数学的に考える資質・能力を高める。 (エ) 円、軌跡、ベクトル、三角関数について理解を深め、適切に活用できるようにする。	(6)
二 学 期	数学 II 第 6 章 微分法と積分法 数学 C 第 2 章 空間のベクトル 数学 B 第 1 章 数列 数学 C 第 3 章 複素数平面	・ 1 学期での学習のねらいを踏まえた上で、以下のことに留意して学習する。 (ア) 様々な公式を覚えるだけでなく、その公式の導出方法を理解する。 (イ) 練習問題については、数値が変更しても対応できるように、その内容を理解・整理する。 (ウ) 学習内容を生活と関連付けた課題を設け、インターネットを使って調べ、レポートにまとめる。 (エ) 指数関数、対数関数、ベクトル、数列について理解を深め、適切に活用できるようにする。	(6)
三 学 期	数学 B 第 2 章 統計的な推測 数学 III 第 1 章 関数 第 2 章 極限	・ 1、2 学期の学習のねらいを踏まえた上で、以下のことに留意して学習する。 (ア) 様々な角度から問題を見て、学習した公式を活用しながらよりよく問題を解決する。 (イ) 練習問題を他の生徒に教えるなど教え合いの時間を有効活用し、理解を深める。 (ウ) 生徒自らが学習内容を生活と関連付けた課題を設けレポートにまとめ、数学の良さをさらに認識する。 (エ) 複素数平面、統計、関数、極限について理解を深め、適切に活用できるようにする。	(6)

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(7)(8)(9)(10)については、全ての単元において評価項目として用いる。